

1 単元名・教材名 「What do you want? ～Happyになれる, “にこにこ弁当”をどうぞ～」
『Let's try2』Unit7 「What do you want?」

2 単元の目標

- 食材の言い方や, 欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。 (知識・技能)
- 欲しい食材などを尋ねたり要求したりするとともに, 考えたメニューを紹介し合う。
(思考力・判断力・表現力)
- 相手に配慮しながら, 自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきり話されれば, 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと 【やりとり】	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

4 単元の評価規準 ※記録を残す評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉What do you want? I want~, please.などの表現や食材の言い方など, 情報を聞き取るために必要な表現や語彙について理解している。 〈技能〉What do you want? I want~, please.などの表現や食材等の情報を聞き取る技能を身に付けている。	オリジナルメニューを作る参考にするために, 外国の市場の様子を見てそれぞれの国の違いに気付いたり, 市場でのやり取りを聞いてその概要を捉えたりしている。	オリジナルメニューを作るために, 食材や欲しい物などについての簡単な語句や基本的な表現を聞き取ろうとしている。
話すこと 【やりとり】	〈知識〉What do you want? I want~, please.などの表現や食材の言い方など, 情報を聞き取るために必要な表現や語彙について理解している。 〈技能〉オリジナルメニューを作るために, What do you want? I want~, please.などの表現や食材等の情報を伝え合う技能を身に付けている。	オリジナルメニューを作るために, 相手に伝わるよう工夫しながら, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	オリジナルメニューを作るために, 食材や欲しい物などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

5 指導上の立場

(1) 単元観

これまでに児童は, 相手意識をもって学習課題に取り組み, 友達や指導者と簡単なコミュニケーションを図る体験を積み重ねてきている。4年生前半の学習では, 好きな遊びや曜日を尋ね合ったり, おすすめの文房具セットを作って紹介し合ったりする活動を通して, 新しい表現を知る喜びや, 英語を使って相手に伝える楽しさを味わってきた。

そこで, 本単元では, 児童が今までに慣れ親しんだ語彙や表現も使って, 児童同士で二往復以上のやり取りをするよう活動を設定する。何往復かのやりとりを経験し, 言葉で通じ合うことの楽しさを十分に感じさせたい。また, そのために, 単元のゴールを「オリジナル“にこにこ弁当”を考えよう」とした。本校では, 新本地区の民生委員の方々のお世話のもと, 一人暮らしのお年寄り宅に月に一度お弁当を渡す「ふれあい弁

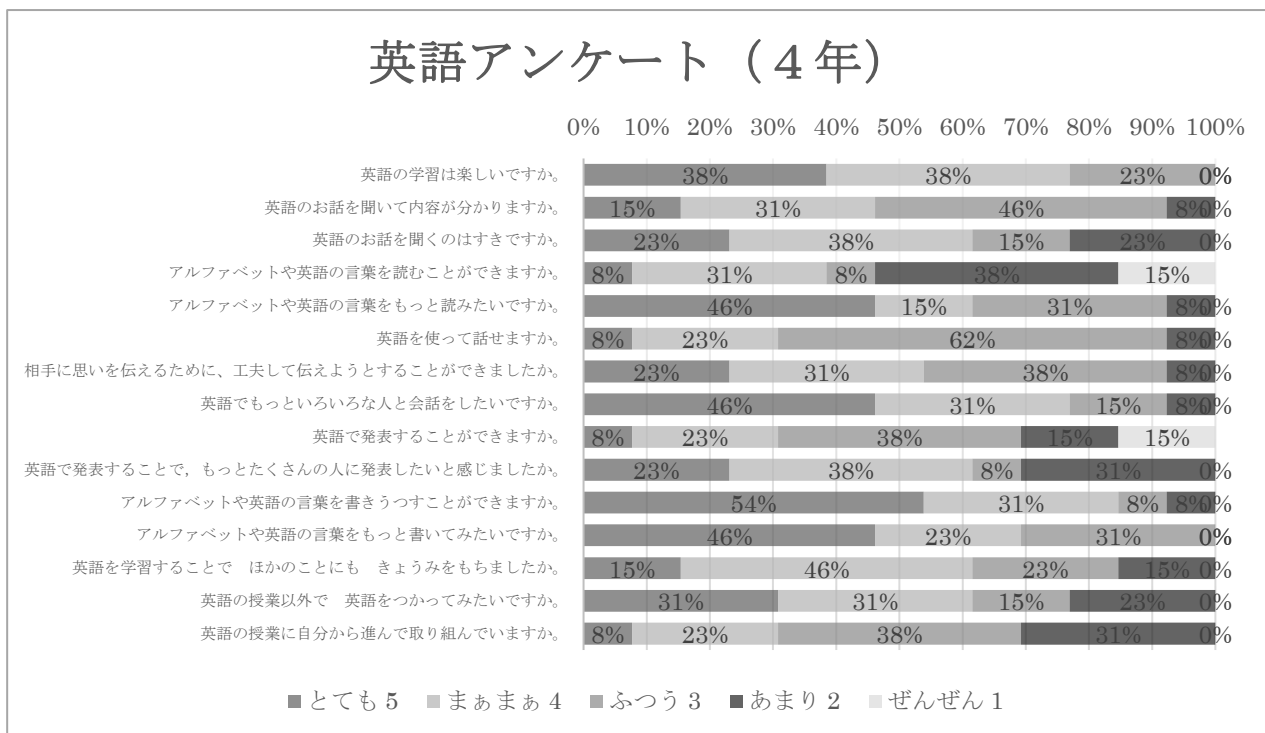
当」の日を設けており、児童達は「にこにこ弁当」の名で親しみをもっている。4年生はお弁当を受け取ったお年寄りの方々に、明るい気持ちになってもらおうと、毎月お弁当に手紙を添える活動に取り組んでいる。また、児童達は、総合的な学習の時間において「ともに生きる」と題して福祉について学習を始めたばかりであり、その導入として「ふれあい弁当」の活動について調べ学習を進めているところである。「オリジナル“にこにこ弁当”を考える」という目的をもたせることで、自分の思いに合ったお弁当を考えるために、What do you want?の表現を使いながら、進んで欲しい物を尋ねたり、答えたりできるようにする。さらに、How many?や Do you like~?など、既習の知識を活用して二往復以上のやり取りを行う場面を設定することで、児童が、コミュニケーションを円滑にするための言語の働きに気付き、言語によるやり取りの大切さを実感できるようにしたい。また、What do you want? ~, please.は既に3年生で慣れ親しんでいる表現であることを踏まえ、本単元では答え方をフレーズではなく、I want~, please.と文表現にした。このことは、5年生以降での文構造への気付きに繋がっていくことが期待される。

(2) 児童観 (男子6名 女子9名 計15名)

今年度4月に行った英語アンケートでは、「英語の勉強が楽しいですか」に対して76%の児童が肯定的な回答を示している。しかし、「英語のお話を聞いて内容が分かりますか」の問いに肯定的に答えた児童は46%と低く、また、「英語を使って話せますか」という質問に対しては31%しか肯定的な回答をした児童がいなかった。「英語でもっといろいろな人と会話をしたいですか」の問いには約80%の児童が肯定的な回答をしており、伝えたい思いはあっても、英語での言い方が分からない時に、伝える事をあきらめたり、失敗を恐れるあまり自信をもってやりとりできなかつたりする児童がいることが分かった。

これまで、授業の中で、担任とALTとの英語でのやり取りを聞いたり見たりして、どんな話をしているか児童同士で話し合い、内容を捉えられるような活動を多く取り入れてきた。また、児童同士が英語でやり取りを行う時間を大切に授業を構成し、学習を進めてきた。その結果、少しずつ自信をもって英語でコミュニケーションを図ろうとする児童の姿が見られるようになってきている。しかし、個人差も大きく、未だ不十分に感じる場面も多い。

そのため、本単元では児童の「会話をしたい」という思いを大切に、やり取りを続けることの楽しさを味わうことで、英語学習への意欲の高まりを期待したい。さらに、指導に当たっては、(3)の研究主題との関りを踏まえ、手立てを行っていく。



(3) 研究主題との関わり

本校の研究主題は「自分の思いや考えを伝え合い、地域や世界とつながろうとする児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～」であり、本校の考える仮説についての基本的な考え方は、次の3つである。

- 1 単元や発達段階の特性を踏まえて言語活動を工夫することにより、児童は、自分の思いや考えをもち、それを伝え合おうとするであろう。
- 2 1単位時間または単元の中で、児童自身による評価（振り返り）や教師による評価を適切に行うことによって、児童は思考力・表現力・判断力を高めながら学習に取り組むであろう。
- 3 学びのつながりを意識して、様々な人々と関わることができる単元（新本オリジナル）を構成することで、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わい、より広い世界に目を向けるであろう。

1 について

帯活動として Warming up では、チャンツと small talk を取り入れる。チャンツでは What do you want? I want potato, please. How many? Two, please. という尋ね方と答え方を何度も聞いたり言ったりして慣れ親しませるようにしたい。慣れてきたら、児童に選ばせた果物や野菜に替えて言うことで、より意欲的に取り組む事ができるようにする。small talk では、毎回、既習の表現を使いながら、友達と伝え合う時間を設ける。既習の表現を思い出しながらやり取りする中で、少しでも自信をもって活動に参加できるようにしたい。

本時では、オリジナル“にこにこ弁当”を作るために、買い物の場面を設定し、店員と客に分かれて買い物ごっこのやり取りを行う。客は自分の思いや考えを正確に伝えるために、店員は相手の言ったことを確認するために、言ったことをできるだけ繰り返させるようにする。そうすることで、児童がコミュニケーションを円滑に行うための言語の働きの気づき、情報のやり取りを行うことの大切さや楽しさを実感できるようにしたい。活動の前半終了後に中間交流の場を設け、やり取りを通して生じた課題や、友達が使っていた表現を全体に共有することで、後半の活動に活用できるようにする。

2 について

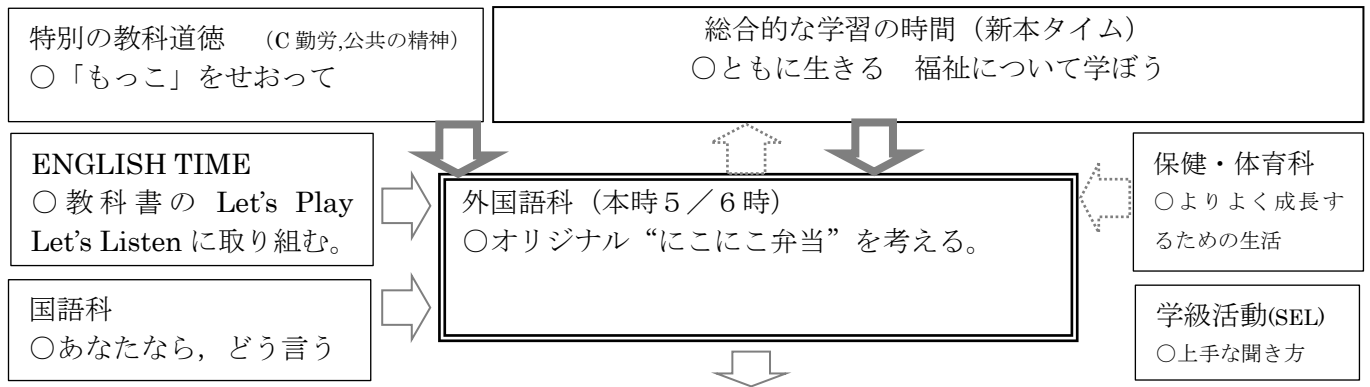
毎回の授業の時間で全てを見取るのではなく、単元のまとまりの中で学習内容と評価の場面を適切に組み立てていくことができるようにするため、単元を通した評価の計画を立てている。この評価規準と評価の計画を活用することで、児童の学習状況を的確に捉え、指導改善につなげることができるようにする。担任、ALT が同じ場面、同じ評価規準で児童を評価することで、個々の児童の達成状況に応じたより適切な支援ができると考える。本単元では、「話すこと [やりとり]」に焦点を置き、記録に残す評価を行う。

また、毎時間「がんばるリスト」を使用し、「自分のめあて (my aim)」に対する振り返りや、できるようになったこと、新しく知ったことなどを記述させることで、自己の変容に気付いたり、学びを自覚したりできるようにする。さらに、授業の終わりには、担任、ALT がそれぞれの観点で感じたことをフィードバックできるようにする。主に担任は単元全体を見通し、前時と比べた時の児童の成長を、ALT は発音や表現について感じたことを伝えていくことで、次時に向けてさらに自己調整しようとする姿を期待する。

3 について

本単元では、オリジナル“にこにこ弁当”を作るために、自分の考えを伝え合う活動を行う。総合的な学習の時間などとの関連を図り、調べ学習も交えながら学習することによって、より関心をもち、意欲的に活動できるのではないかと考える。また、外国の市場の様子を見てそれぞれの国の違いに気付いたり、市場でのやり取りを聞いてその概要を捉えたりすることで、本単元を通して学習するやり取りが、世界各国の人々の生活の中で、日常的に行われているコミュニケーションであることにも気付かせたい。本単元で得られた伝え合うことへの達成感が、今後の児童の人生において、より広い世界へと目を向ける一助となることを期待する。

6 関連構想図



第5学年「When is your birthday?」

7 本時案

(1) 本時のねらい

- ・ 既習の表現を用いながら、欲しい物を尋ねたり答えたりすることができる。
- ・ 二往復以上のやり取りを通して、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わうことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援(●HRT, ■ALT, ◆HRT)	学習評価
1 Greeting	●■英語で挨拶をした後、気分や天気、曜日、日付、好きなものなどについて尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。	
2 Warm up chant small talk	■◆参加しにくい児童や困っている児童に声をかけたり、一緒に歌ったりする。 ●■チャンツでは、児童が選んだ果物や野菜に替えて歌うことで意欲を高められるようにする。	
3 Review Demonstration	●■デモンストレーションを見せることで、本時のめあてをつかむことができるようにする。 ① 店員●Hello. What do you want? 客■I want rice ball, please. 店員●OK.(6 rice balls)Here you are. 客■Oh… ●客がどうして困っているかを問い、どうすればよかったか話し合うことで既習の表現や、やり取りのポイントを思い出せるようにする。 ② 店員●Hello. What do you want? 客■I want rice ball, please. 店員●How many? 客■Two, please. 店員●OK. Two rice balls.... Here you are. 客■Thank you. I like rice ball. 店員●Me too. Thank you.	
4 Aim	●どんなことが分かったか話し合う中で、めあてをつかむことができるようにする。	
Aim	たずね方や答え方を工夫して、オリジナル“にこにこ弁当”を作ろう。	

<p>5 Activity ・前半</p> <p>・中間交流</p> <p>・後半</p> <p>6 Comment time</p> <p>7 Greeting</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●My Aim として、本時でアップさせたい力を「がんばるリスト」に書いてもよいことを伝え、自ら学ぼうとする意欲を引き出すようにする。 ●事前に決めたグループで、店員と客に分かれて買い物ごっこをすることを伝える。 ◆特に支援を要する児童の様子をみたり、声をかけたりして、活動に参加できるようにする。 ●しっかり質問や反応している児童を称揚する。 ■誤った発音があれば正しい発音をして、児童の気付きを促す。 ●よかったこと、難しかったことなどについて確認することで、より良い活動になるよう、話し合いを促すようにする。 ●伝え合いのポイントについて確認することで、児童が次の活動に活かせるようにする。 ●■中間交流を踏まえて、変化した姿を称賛することで意欲的に活動できるようにする。 ●■困っているグループにアドバイスをする。 ●完成した弁当をタブレット PC で撮影し、各自提出しておくことを伝え、次時につなげられるようにする。 ●ふりかえりカードに My Aim の達成度を記入し、高められた力を実感することができるようにする。 ●本時の学習で新たに学んだことや今後生かしていきたいことを記述することで、学びに向かう力を高められるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに習った英語を使うと、何往復も英語で会話することができた。 ・ ポイントを大事にすると、やりとりが深まって、楽しく会話できた。 ・ これからもたくさん英語で会話をしてみたい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■発音や表現について気付いたことを伝え、今後頑張りたいことに気付けるようにする。 ●前時の様子と比べて良くなったところや児童が関わり合う様子を見て、感じたことを伝え、成長の喜びを感じられるようにする。 ●■気持ちのよい挨拶をすることで、次時への意欲を高めることができるようにする。 	<p>◇質問を工夫したり、相手が話しやすいように反応したりしてやり取りができている。〈行動観察〉</p> <p>【思・判・表】 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>【主】 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>◇自分の変容に気付いたり、学びを自覚したりしている。〈書き込み点検〉</p> <p>【思・判・表】 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>【主】 <input checked="" type="checkbox"/></p>
---	---	--

(3) 板書計画

(画像)	Goal	オリジナル“にこにこ弁当”を考えよう。
	Aim	質問や答え方を工夫して、オリジナル“にこにこ弁当”を作ろう。
	schedule	ポイントや工夫

